

## ．各学部・学科・コースごとの教育方針

### 一．経営学部

#### 【教育目標】

情報化社会に現在の中で、企業（会社）を維持し、またその中で活躍していくためには、幅広い知識と情報を活用できる能力が求められている。経営学部はこのような社会的要求にあった人材を育成するため、経営学、経済学、情報学を3本柱にして多彩な分野でその能力を発揮し活躍できる人材を育成することを目的としている。

特に次の3点を学びのポイントとしている。

- 1．情報化社会で必須である高度なITスキルを修得した人材を育成。
- 2．社会に貢献できる人物を育成。
- 3．経営感覚を身につけ社会での実学に結びついた人材を育成。

#### 【現状報告・自己点検・評価】

従来からあった経営経済学科を経営情報学科一つにまとめコースを6コースとし学生が自分の興味ある学問をより深く学修できるようにした。経営情報学科の各コースとして、「医療情報コース」はこれからの医療機関での情報技術者の必要性を見通して設けたコースであり、かなり高度な資格の取得が必要である。当学科の中でも比較的優秀な学生が目指すコースでもある。このコース希望者はまだ少ないが意欲的な学生、勉学に熱心な学生がこのコースをとっている。「医療情報技師資格」を目指す当コースの学生を対象に、補講授業を行うと当コースの学生の積極的な参加がみられる。「情報技術コース」はIT技術をベースとして経営、経済学を理解し、企業活動で必要とする幅広い課題を学んでいくコースである。「会計マネジメントコース」は会計学をベースに幅広く教養としての会計学、経営学全般を学び実践的な知識と理論を持てるようになるためのコースである。「ものづくりデザインコース」は現在の学生に不足している探求心を持たせ、ものをつくることへの重要さ面白さを与えるコースである。文科系の学科でありながら比較的理科系要素もいれ、ものの動作原理を理解させて探求心と科学的、合理的な考えを育てるようにしている。「事業経営コース」は経営と情報の知識、技術をベース事業経営の実践力を身につけこれをビジネスの武器と活用していけるようになるためのコースである。「経営心理コース」は経営を理解し、さらに現在の企業で必要とされる経営心理学などの基本知識を修得して企業人として能力を発揮できるようにしていけるようになるためのコースである。具体的な目標を持たないで入学してくる学生が多い中で、学生が成長していくにつれて、より具体的な目標や興味をもつようになってくるが、1学科6コースとすることにより、経営学部として入学した学生の中で自分の興味ある方向への選択の自由度が高くなり勉学意欲がより高めやすい環境としている。ちなみに平成20(2008)年度入学生の希望コース調査(在籍者数

57人 調査数50人)によれば医療情報 5人、情報技術 11人、会計マネジメント 2人、ものづくりデザイン 10人、事業経営 12人、経営心理 10人となり医療情報と会計マネジメントを除けばコース希望はほぼ均等に配分されている。

### 【課題】

経営学部の教育目標である、情報化社会で必須である高度なITスキルを修得した人材育成、社会に貢献できる人物の育成、経営感覚を身につけ社会での実学に結びついた人材育成のうちとについては比較的实践しやすい状況でもあり各教員努力しているが、については学生のキャリア計画と結びついた資格取得が叫ばれる今日、重点課題としていかねばならない。

## (1) 経営情報学科

### 【教育目標】

従来の経営情報学科と経営経済学科の2学科を経営情報学科の1学科とし、学生が希望のコースを選びやすくするため6コースとした。つまり「医療情報」「情報技術」「会計マネジメント」「ものづくりデザイン」「事業経営」「経営心理」の6つのコースである。「医療情報コース」はこれからの医療機関での情報技術者の必要性を見通して設けたコースであり、かなり高度な資格の取得が必要である。「情報技術コース」はIT技術をベースとして経営、経済学を理解し、企業活動で必要とする幅広い課題を学んでいくコースである。「会計マネジメントコース」は会計学をベースに幅広く教養としての会計学、経営学全般を学び実践的な知識と理論を持てるようになるためのコースである。「ものづくりデザインコース」は現在の学生に不足している探求心を持たせ、ものをつくることへの重要さ面白さを与えるコースである。文科系の学科でありながら比較的理科系要素もいれ、ものの動作原理を理解させて探求心と科学的、合理的な考えを育てるようにしている。「事業経営コース」は経営と情報の知識、技術をベース事業経営の実践力を身につけこれをビジネスの武器と活用していけるようになるためのコースである。「経営心理コース」は経営を理解し、さらに現在の企業で必要とされる経営心理学などの基本知識を修得して企業人として能力を発揮できるようにしていけるようになるためのコースである。当学科では、高度情報処理技術の観点から企業社会における将来的な活躍の場を見据え上記各コースで力を発揮できる人材を育成する。

### 【現状報告・自己点検・評価】

「医療情報コース」はこれからの医療機関での情報技術者の必要性を見通して設けたコースであり、かなり高度な資格の取得が必要である。このコース希望者はまだ少

ないが意欲的な学生、勉学に熱心な学生がこのコースをとっている。「医療情報技師資格」を目指す当コースの学生を対象に、補講授業を行うと当コースの学生の積極的な参加がみられる。「情報技術コース」はIT技術をベースとして経営、経済学を理解し、さらに現在の企業で必要とされる経営心理学などの基本知識を修得して企業人として能力を発揮できるようにしている。また基本情報技術者試験や初級シスアドの資格取得を目指すようにしている。「会計マネジメントコース」は企業の状況を把握し、企業経営をささえる会計力を身につけ税理士試験にむけ積極的なチャレンジをサポートできるようにしている。これからこのコースからチャレンジャーを期待するものである。「ものづくりデザインコース」は現在の学生に不足している探求心を持たせ、ものをつくることへの重要さ面白さを与えるコースである。文科系の学科でありながら比較的理科系要素もいれ、ものの動作原理を理解させて探求心と科学的、合理的な考えを育てるようにしており、当コースの学生はものづくりに対する興味・関心は高まり、熱心に実習にとりこんでいる。「事業経営コース」は将来リーダーとして会社経営をしていくかまたは管理職として企業経営に携わることを目指し中小企業診断士1次試験や3級FP技能検定に対応した科目を編成し広く浅く事業経営知識を修得させてきた。今年度新設コースであり学生の反応を期待していきたい。「経営心理コース」は、企業経営に求められる即戦力としてのビジネスリーダーとしてまた、企業社会における人間関係やストレス社会に生きる人々たちへのカウンセラーとして活躍できる知識と技術を身につけるようカリキュラムを編成し教育している。このコースも今年度新設のコースであり学生の反応を同じく期待していきたい。

### 【課題】

「医療情報コース」については、資格試験向けの演習を中心として「医療情報技師資格」を取得できるようにまた、本人の意欲の高揚を継続するよう指導していく。「情報技術コース」では机上の学問を与えるばかりでなく、実際に会社というものを身近に感じふれあう場をあたえることによって実践的な知識が身につくと考えるので授業の中にこれを取り込んでいく。具体的には産学連携というかたちをとって学生が理解しやすいまた身をもって体験できる授業にもっていく。また情報系の資格取得に目を向けさせていかねばならない。

「会計マネジメントコース」は簿記2級、1級、税理士試験にむけてチャレンジする学生がでてくるようにしなければならないが、このコース希望者が2名と少ないため、まず興味を向かせる授業の工夫を考える必要がある。「ものづくりデザインコース」については、ものづくりに必要である理念そのものを学生たちに理解できるような教材を工夫していく。「事業経営コース」は中小企業診断士1次試験や3級FPの技能検定資格を取得するようなカリキュラムを組んでおりこの資格を目指す学生を増やしていく必要がある。「経営心理コース」は始まったばかりのコースであるが、比較的希望

者も多く、学生の興味を維持していくように授業内での意識を向けていくよう努力していく。

1 学科 6 コースとなり学生はより自分の興味あるコースを選択できるので、学生の興味をより深く、また向学心を燃やすように各教員の授業の工夫、ならびに資格取得にむけてチャレンジする気持ちを与えるようにしていかなければならない。

## 1. 医療情報コース

### 【教育目標】

少子高齢化社会に突入し、医療費削減の切り札として、医療の「治療型医療」から「予防型医療」への大きな変革が叫ばれている。この実現のために、政府は医療の ICT（情報通信技術）化、具体的には電子カルテの導入や診療報酬請求（レセプト）のオンライン化、地域医療連携等の施策を強烈に推し進めている。

この実現には、医療と ICT の知識をバランス良く保有して、病院内はもとより、病院とホームドクター・在宅医療現場、医療関連産業を結ぶ医療情報コミュニケーターの存在が必要不可欠であるが、絶対数が不足している。これを担うのが医療情報技師で、国のバックアップもあって資格受験者が殺到しており、取得者は病院はもとより、医療福祉機関、医療機器メーカー、製薬会社等からの人材要請が強い。

また電子カルテ等医療現場の電子化が進めば、医師がこの対応に追われ、患者と接する時間が少なくなりがちである。これを補って、医師が患者とより熱いコミュニケーションが取れるように事務的側面からサポートし、病院全体が円滑に業務遂行出来るように配慮する医療秘書の存在が改めて見直されている。

本コースではこれからの職業としてとても大きな注目を集めている医療情報技師や医療秘書を養成する。

特に医療情報技師については、

）医療関係者とコミュニケーションを取るために必要な医学・医療に関する知識  
）医療情報システムを構成するコンピュータ・ネットワーク等一般情報処理に関する知識

識

）病院情報システムや電子カルテ、地域医療等医療情報システムに関する知識  
が要求されており、これら 3 つをバランス良く習得させ、実際に病院で使われている最新の電子カルテシステムや医療画像システムを使いながら、看護学部の医学・医療の専門家や講師陣も加わって、実際の病院で役に立つ人材を養成する。また医療情報技師については医療情報学会が「医療情報技師資格」を認定しているので、この資格試験に 3 年次 8 月もしくは 4 年次 8 月の合格を目指して演習コースを設け、過去の国家試験の出題傾向に沿った演習まで行う。

### 【カリキュラム構成】

カリキュラム構成は以下の通りである。

- 1年次：春学期 「医療情報入門」  
概要： 医療や医療情報に関する基礎知識の習得  
担当： 山本（非常勤）
- 1年次：秋学期 「医療情報（医療情報システム編）」  
概要： 医療情報システムの詳細の習得  
担当： 瀬川
- 2年次：春学期 「医療情報（医療情報システム編）」  
概要： 医療情報システムの詳細の習得（医療情報システム  
の続き）  
担当： 瀬川  
「医療情報（医療・医療編）」  
概要： 医療・医学の基礎的知識の習得  
担当： 杉村（看護学部教授）  
「医療情報（医療・医療編）」  
概要： 医療・医学の基礎的知識の習得（医学・医療 の続き）  
担当： 杉村（看護学部教授）
- 2年次：秋学期 「医療情報（IT編）」  
概要： 医療情報技師に必要な情報処理技術の習得  
担当： 瀬川  
「医療情報（IT編）」  
概要： 医療情報技師に必要な情報処理技術の習得  
担当： 瀬川  
「医療情報演習」  
概要： 医療情報技師試験合格を目指した演習  
担当： 山本（非常勤）
- 3年次：春学期 「医療情報演習」  
概要： 医療情報技師試験合格を目指した演習（続き）  
担当： 山本（非常勤）
- 4年次：春学期 「最新医療情報」  
概要： 最新の医療情報システムを見学等で体験  
担当： 瀬川

#### 関連授業

- 1年次：春学期 「医療秘書技能」  
概要： 医療秘書に必要な技能の習得

担当： 竹田  
1 年次：秋学期 「医療秘書技能」  
概要： 医療秘書に必要な技能の習得（続き）  
担当： 竹田

一般の情報処理技術は他の情報処理関係の授業で修得するものとする

「情報処理概論」, 「情報の倫理」, 「情報処理演習 1」, 「情報処理演習 2」, 「経営情報論」,  
「情報管理論」, 「プログラミング」, 「プログラミング 演習」, 「プログラミング」,  
「プログラミング 演習」, 「データベース論」, 「情報と職業」, 「システム設計論」,  
「システム設計論」, 「システム設計論演習」, 「システム設計論演習」,  
「情報通信ネットワーク」, 「セキュリティ管理」, 「経営情報システム」

### 【自己点検・評価】

本コースは平成 19 (2007) 年度秋学期からスタートしたものであり本年度は 1 年次生と 2 年次生しかいない。特に 2 年次生については昨年が半年ずれてスタートしたこともあって、「医療情報 (医療情報システム編)」, 「医療情報 (医療情報システム編)」, 「医療情報 (医療・医学編)」, 「医療情報 (医療・医学編)」, 「医療情報演習」の授業が行われた。2 年次生については初めて尽くして、PPT 等の補助資料、演習問題」も全くの手探りで作成した。修得する学生も非常に意欲的、熱心で、且つ優秀な学生だったので所定の知識修得という目標は達成できたのではないと思われる。

1 年次生については、本来設定した通りの科目を取らないで受講するとか、ただ授業に出席するだけという学生もいて、医療情報技師資格を取得するという目標を達成するにはかなり努力を要するという状態である。

### 【課題】

本コースの課題について以下箇条書きする。

- ・電子カルテシステムや医療画像システムはある時間帯に纏めて見て貰うというスタイルで利用したが、授業の随所で関連する画像を見せられるようにコース開発したい。
- ・本授業を受講するだけという学生は特に問題は無いが、医療情報技師資格を取得するというのがコースの本来の目標で、これに足る資質と意欲を持たない学生をどう処していくか考えたい。
- ・医療ならびに医療制度は日進月歩しており、医療情報技師資格試験もこの辺りを意

識して出題しているようである。このような最新情報の入手法と、それをカリキュラムにどう反映していくかについて考えたい。

## 2．情報技術コース

### 【教育目標】

情報技術をベースとして、企業で必要とする「会計学」、「経済学」の知識を身につけ企業の現場で能力を発揮できる人材を育成する。企業社会や一般生活においてコンピュータは中心的な存在となっているが、高度に進化する IT 分野においてネットワーク構築やデータベースの管理といった情報スキルが求められこのような技術を理解しそれを活用できる人材の育成を目指している。

### 【カリキュラム構成】

1年、2年次は経営、経済、情報の基礎教育を中心に行っている。本コースは情報システム関連科目にウェイトをおいており、中でも現在の社会に必要なネットワークやデータベースなどの情報スキルをベースにカリキュラムを構成している。また目標となる「上級情報処理士・情報処理士」や情報処理技術者資格取得にチャレンジできるよう基礎内容を「情報処理概論」や「プログラミング」などの教育科目の中にいれている。また初級シスアド、基本情報処理技術者資格を目指す学生には、基礎統計学、経営統計学、マーケティング論、簿記、経営学、経営情報論、IT戦略、セキュリティ管理などの科目から関連する知識を得て、資格取得に向けて勉強し易くしている。

### 【自己点検・評価】

経営学部の教員には企業経験者が比較的多いため授業の中で実経験に基づいた講義ができるため学生にとっては実学を学び易い。また、コンピュータ技術をベースとして、会計学や経済学の知識を、更に企業経営で求められる心理的要素をも含めた社会に通じる実践力のある人材を育てるためのコースであるので IT 関連科目に重点を置いており、学内で実施しているマイクロソフトワード・エクセルのスペシャリスト資格は比較的多く取っている。しかしながら、情報処理技術者等の資格試験には受験者がいないに等しい。この資格試験は決して易しいものではなく、全般的に敬遠される傾向があるようだ。

### 【課題】

本コースの学生から情報処理技術者資格取得を目指すには初級シスアド資格を目指すのが第一条件であろう。その後、基本情報処理技術者試験を目指していくという段階を経なければならない。シスアドの資格を目指す学生を情報関連授業の中から選んで本人に指導していくことから始める。

## 3．ものづくりデザインコース

## 【教育目標】

「産業空洞化」、「厳しい価格競争」、「技能者不足」などが叫ばれて久しい。我が国は資源が乏しく、いかに付加価値の高い製品を生み出し、低価格で供給できるかに今後の産業の命運がかかっている。ものづくりの本質が問われるときである。

本コースではものづくりとはなにか、どうあるべきかを学ぶものである。豊富な実例にもとづく知識の教授と、実際に手を動かしてものを作る体験、その両面からのアプローチをとおして科学・技術に明るく、かつ工業立国・技術立国として我が国のものづくりの将来あるべき姿を探求できる人材の育成をめざす。

## 【カリキュラム構成】

CAD 1年次・春学期配当 2単位 選択 講義・演習

概要：ものづくりに不可欠な図面。従来の定規とコンパスによる手書き作業から、現在はパソコン上で直線、円、矩形、文字入力などのコマンドを駆使する描画作業にかわった。CAD ではそれら基本的な描画コマンドの使い方について学ぶ。

担当：若宮達夫

CAD 1年次・秋学期配当 2単位 選択 講義・演習

概要：CAD に続き、移動、複写、反転、拡大縮小、ハッチングといった応用的なコマンドの使い方や、線属性、レイヤー、グループなどの概念について学び、これらのコマンドを用いて実際の図面を作成する。

担当：若宮達夫

ものづくり実習 2年次・春学期配当 1単位 選択 実習

概要：基本的な作図法や造形、機構などを習得したのち実際に簡単な作品を制作する。それによりものができあがっていく過程、仕組み、ノウハウなどを理解することや工夫することの重要性を学ぶ。

担当：若宮達夫

ものづくり実習 2年次・秋学期配当 1単位 選択 実習

概要：ものづくり実習 に続き、素材の特徴を活かした作品を制作する。さらに、ものづくりに不可欠なコンピュータ(パソコン)についてもプログラミングや制御を中心としたテーマを学ぶ。

担当：若宮達夫

ロボティクス 2年次・秋学期配当 2単位 選択 講義

概要：心理学、社会学、哲学などをも包含し、ロボット工学の範囲よりさらに広いロボットに関する科学「ロボティクス」。将来、高度に発達した次世代ロボットと人間とがいかに共生するかを学ぶ。

担当：中村明德

ものづくり経営学 3年次・秋学期配当 2単位 選択 講義

概要：ものを加工することで高い付加価値を生み出さざるを得ない我が国の産業。厳しい国際競争に晒されている中であって、新しいものづくりモデルをいかに創出すべきか、について学ぶ。

担当：山田晃

ロボットシステム 3年次・秋学期配当 2単位 選択 講義

概要：製造業・非製造業を問わずさまざまな分野・現場で稼働するロボット。その仕組みや利用技術、産業の発展とともに歩んできたロボットの歴史などを学ぶ。

担当：中村明德、若宮達夫

生産システム 4年次・春学期配当 2単位 選択 講義

概要：工業製品を大量かつ高品質、安価に作り、かつ供給するための方法や考え方、生産システムの発達史、流通・販売に関することから、さらに廃棄物処理やリサイクルなど環境保護に関する諸問題についても学ぶ。

担当：若宮達夫

## 【自己点検・評価】

本コースは平成20(2008)年度からスタートし、現在1年生のみである。コース開設にあたり、次のような点を取り組みの骨子とした。

### (1) 探求心の育成

「ものづくり」という響きは一見わかりやすいものではあるが、そのじつ多くの技術が凝縮されたものである。たんに製品を使っているだけではこの技術は見えない。デジタル家電に代表されるようになりに高度な構造、動作原理を有しているものが多い。それを小さな単位 - 要素技術 - に分解し、ひとつひとつその仕組みや原理を解き明かしていくところに面白みが湧く。その中に物理や化学、数学などが活かされていることを発見し、はじめて自然科学が身近に関わっていることに気付く。そしてものの全体像がはっきりと見えてくるようになる。これらのプロセスを背景に「探求する心」を育てていく。

### (2) 科学的、合理的な考えの育成

JIT や MRP、「カンバン方式」、TQC をはじめ、生産現場ではさまざまな管理手法が駆使されており、その取り組みが無駄を省き、効率や信頼性を向上させ、製品の低コスト・高品質を実現・維持している。これらの手法は一朝一夕にできあがったものではなく、多くの先人たちの試行錯誤の上に構築されたものである。さまざまな工夫が改善・改良につながり、問題解決に寄与する。このような経験則を踏まえ「科学的、合理的な考え方」ができる力を育んでいく。

本コースの諸科目に触れることで新たな世界が開け、ものづくりに対して興味・関心が高まったようである。とくに実習はたいへん熱心に取り組んでいる。ものづくりは面白い、という学生があらわれ滑り出しは順調であると考え。

本コースに関する諸科目を学修することで以下のような多くの教育効果を得る。

1. 製品の源である材料に関する知識を得る。
2. 通常は分解しないとわからない製品の構造、動作原理が明瞭になる。
3. ものづくりを支える加工技術、コンピュータ技術、ロボット、各種管理手法などが理解できる。
4. 製品についての安全性、信頼性を意識するようになる。
5. 安価で良質な製品を安定に供給する必要性を知る。
6. 輸送や販売などをとおしてもものづくりを経済活動と結びつけて考えられるようになり、関連する他の科目の理解がより深まる。
7. 環境問題を自分のこととして捉えることができる。
8. 資源には限りがある、ということ認識する。
9. 実習においてはものができあがっていく過程を目の当たりに見ることができる。また、できあがったとき大きな感動体験を得る。
10. いわゆる「現場の苦勞」がわかる人になる。ひいては8.とあいまってものを大切にする、という考えが確立する。
11. ものを見る目がたんに外観や価格だけでなく、仕組みや作り方への興味・関心を伴ったものになる。
12. 「使ってみたい」と思わせる製品とは何か、という想像力が生まれる。

上記のようにさまざまな知見が充実することで、ものづくりがより身近なものとして感じられ、さらにはものを使う側の立場から作る側の立場で見ることができるようになる。自分の手で作った作品がうまく動いたときの喜びは何にもまして大きい。これらのことから、将来製造業に就くことを希望する学生があらわれることを期待するものである。

### 【課題】

本コースの展開を振り返ってみて、授業技術のさらなる向上に努めることはもちろ

んであるが、つぎのような点が現在の課題であると考える。

- (1)「ものづくり」は単にもの作るだけでなく、そこには理念が存在する。経済活動の中心である、といっても過言ではない。かつての大きな公害問題や現在抱える環境問題を例に引くまでもなく、理念なくしての「ものづくり」はあり得ないと言える。知識・技能はいわば「見えるもの」であるが、理念に関してはそうではない。これを将来社会の中核を担う学生達に向け、いかに教授するかが工夫を要するところである。
- (2)「ものづくり」は生産システム(科目としてではなく)に大きく関係している。つまり、工学である側面が強い。このような特徴から、講義によって得られた知識を補強するための演習が欠かせないものとなる。したがって、このための教材を必要とする。身近でかつ興味深い充実した内容の教材をいかに開発するかがアイデアを要するところである。

#### 4. 事業経営コース

##### 【教育目標】

経営学部の性格からして、経営学を中心に授業を展開する必要があるがそのときには事業経営コースは学部の中核的な存在になってくる。学生に経営学を初歩から広く教育し、最終的には専門知識を身につけて社会で将来のリーダーとして活躍させる人間を養成したい。

そのために本コースでは、教育目標の基本として経営関係を広く浅く出題している中小企業診断士1次試験の科目を参考にし、これらの科目を斟酌してカリキュラムを編成している。

さらに学生の経済的な観点から「ライフプラン」や人生設計を考えることも非常に重要と考え、「フィナンシャルプランナー」を意識した3級FP技能検定試験を目指す科目も授業として教育することとした。

##### 【カリキュラム構成】

上記に述べた中小企業診断士1次試験や3級FP技能検定試験に対応する科目は次の通りである。

##### 1) 中小企業診断士1次試験に対応する授業科目

中小企業診断士1次試験科目	本学対応授業科目
経済学・経済政策	マクロ経済学、経済政策、福祉経済論
財務・会計	財務諸表論、財務諸表論、原価計算論
企業経営理論	企業経営論、現代企業論、経営学
運営管理	運営管理、マーケティング論、販売管理論、生産管理論

経営法務	経営法務、
経営情報システム	経営情報システム、情報管理論、経営情報論
中小企業経営・中小企業政策	中小企業経営、中小企業政策

2) 3級 FP 技能検定試験に対応する科目

フィナンシャル・プランニング、フィナンシャル・プランニング

### 【自己点検・評価】

事業経営コースを履修する学生は、将来リーダーとして自分で会社経営するかあるいは会社の管理職として実際に企業経営に携わることを目指しているが、中小企業診断士 1 次試験や 3 級 FP 技能検定試験に対応した科目にカリキュラムを編成し、広く浅く事業経営の知識を学生に修得させることができたと思う。

ただ本当に事業経営に当たるとなると、実務経験が重要となるが、インターンシップの授業や実習などと絡める必要があるかもしれない。

### 【課題】

本コースは上記のごとく、広く浅く事業経営に関する知識を修得することが目標であるが、カリキュラムの基礎となった中小企業診断士 1 次試験や 3 級 FP 技能検定試験は資格試験であるので、頑張っこれらの試験に合格する学生が出現することを期待したい。

将来の課題としてこれらの試験合格を考えてみる必要がある。

## 5. 経営心理コース

### 【教育目標】

物から心へ、ハードからソフトへ、生産者から消費者へ、知識社会や情報化社会など、標準化大量生産の産業構造のみならず、多様化少量生産の市場が広がってきている。また、国内市場のみならず、新興国やアフリカ、アジア、中南米の文化と言語を持つ人との交流が国内の消費市場や生産現場で日常的に広がってきている。異文化との共生を成し遂げるには、自己理解の成り立ちを心理学の知識で読み解き、異なる文化で成人となった他人と共に社会生活を形成する理論的基盤を持つことが重要である。また、現実が発生している社会問題の解決には、コミュニケーションスキルの向上は不可欠である。信頼されるデータとしての社会調査の実施と解析を担保する資格を保有すると共に、「話す」ことよりも「聞く」ことのほうが相互の理解と親密度が増すという事実を、理論的に学ぶことは、心やソフトや消費者や知識社会や情報化社会の多様性にあふれた環境で、ビジネスを展開する必要なスキルになると考えている。

## 【カリキュラム構成】

1 年次秋学期 「産業カウンセリング概論」

概要：社会心理学の基礎知識の習得

担当：村本

2 年次春学期 「経営心理学」

概要：パーソナリティ、発達、学習を中心とした心理学の基礎知識を習得

担当：村本

「経営心理学」

概要：認知行動療法の理解と職場の人間関係の改善方法の理解

担当：村本

「対人コミュニケーション論」

概要：社会的スキルの修得及びその指導法の基礎を修得する

3 年次春学期 「カウンセリング原理及び技法」

概要：来談者中心療法の理論と実技を「傾聴」を中心に修得する

担当：村本

3 年次秋学期 「カウンセリング演習」

概要：傾聴訓練と共に認知行動療法の基礎を修得する

担当：村本

4 年次春学期 「カウンセリング演習」

概要：箱庭療法の基礎理解を行う

担当：村本

## 【自己点検・評価】

本コースは平成 18 (2006) 年度春学期からスタートしたものであり本年度は 1 年次生、2 年次生、3 年次生が在籍している。社会調査、マーケティング、企業経営論分野は経営学部共通の科目として運営された。しかし、経営心理の特徴であるカウンセリングを骨格とした対人関係の基礎分野は 1,2 年次で配当した科目は受講の取組みはあったものの、専門的になる 3 年次配当の「カウンセリングの原理及び手法」「カウンセリング演習」の受講者は皆無であった。

## 【課題】

経営心理の特徴であるカウンセリングを骨格とした対人関係の基礎分野は 1,2 年次で配当した科目は受講の取組みはあったものの、専門的になる 3 年次配当の「カウンセリングの原理及び手法」「カウンセリング演習」の受講者は皆無であったことに重点を置き、改善が必要と考える。

## 6．会計マネジメントコース

### 【教育目標】

企業経営としての指標は会計学をベースとしている。この会計学に重点をおき幅広い教養としての経営学、経済学を学び企業の第一線で活躍できる人材を育成する。

### 【カリキュラム構成】

1年、2年次は経営、経済、情報の基礎教育を中心に行っている。本コースは簿記・会計学にウェイトをおき税理士試験の必須科目となる「簿記論」「財務諸表論」「法人税法」「所得税法」等を選択できるようにカリキュラムを構成している。とくに税理士試験の受験資格である日商簿記検定1級、全経簿記検定上級の資格試験を目指せるような授業をおこなっている。なかでも簿記原理や原価計算論については簿記検定資格にむけて勉強し易いようにしている。

### 【自己点検・評価】

大学は必ずしも資格取得の場ではないが、最近の傾向として大学在学中に資格を取得することにより就職のときの有利性があるため、資格取得を目的として大学を希望する学生が多い。このため資格取得を意識したカリキュラムを組み入れ税理士試験で必要となる科目を取り入れているが本コース希望者は意外と少ない。税理士資格は難関でありもちろんダブルスクールを意識しての構成を組んではいるが、まず簿記検定資格に照準をあてる必要がある。

### 【課題】

本学の学生のレベルに沿って簿記検定3級、2級からはじめてもいいと思われる。日商簿記検定3級、2級は本学の資格支援プログラムに入っており比較的取りやすい環境にあるためこの資格の取得者を増やすようにする。